

力自給率を達成している
梶原町など先進地の例も
ある。行政の基本にエネ
ルギー政策の転換を図る
べきだと思うが考えを問
う。

岩崎町長

エネルギー政策の転換
の中でという形で大豊
で実現できるか、またや
るべきなのか、今後注目
しながらしっかりと対応
する。

一般質問

鳥獣被害対策を 強力に推進せよ

問 大量捕獲技術開発に取組を
町独自の取組は困難である

前野由和議員

イノシシ、シカ、サル
などによる農林産物の被
害面積、金額、捕獲数は
どうなっているか。

岩崎町長

大豊町で有害駆除の申
請をする際の被害の状況
は次のとおりである。

大豊町の農林産物の被害状況			
	20年	21年	22年
シカ	14.4 ha	25.7 ha	26.5 ha
イノシシ	1.5 ha	9.0 ha	15.7 ha
サル	5.0 ha	4.1 ha	6.7 ha
総被害額	808万円	1,118万円	1,772万円

平成22年度の捕獲数は、
シカ1、432頭、
イノシシ206頭、サルが57
頭である。

前野由和議員

シカの推定生息数と適

正な個体数からして調整
個体数目標はどう設定し
ているのか。

岩崎町長

町として生息数等の調
査はしていないが、県の
推計では県東部ブロック
で約2万2、000頭
で、大豊町の調整目標個
体数は2、000頭と
なっている。

前野由和議員

狩猟免許所持者数の推
移と年齢階層別数はどう
なっているか。対象面積
を全てカバーできている
のかを問う。

岩崎町長

狩猟免許の登録者数は、
わな58人、散弾銃等
105人、空気銃2人の合計
127人で減少傾向にある。
年齢構成は60歳以上が55
%となっている。

大豊町に何人いたら全
域をカバーできるという
視点での数字はなく、対
象面積を全てカバーでき
ているかは分析していな
い。

前野由和議員

目撃通報に即応できる
体制づくりを進めよ。さ
らに生態系、種を保存す
るためでもあると言われ
るシカの大量捕獲技術開
発に取り組むなど思い
切った施策を進めよ。

岩崎町長

目撃通報に即応できる
体制については、狩猟免
許を持っている皆さんの
ご協力により駆除を行っ

一般質問

飲料水施設の

維持管理は

問 行政が支援する時期が

答 町として今後どう方法が
できるか考えていく

前野由和議員

集落及び少人数で管理
している施設を見ると高
齢者が増水した水源地を
管理している。隣接した
施設との共同管理などで
さる限りの方法で取り
組んでいるが近い将来そ
れも不可能になったとき
行政が手を差し伸べてほ
しいが考えを問う。

岩崎町長

高齢化により非常に苦
労されていることは承知
をしている。小さい施設
だけでなく飲料水供給施
設、簡易水道施設を含め
て、今後の管理の在り方
について検討もした。
今唯一考えられる事業
としてみんなで支える郷
づくり事業が活用できな

いかとか、町として今後

どういう方法ができるか

考えていく。



西川浄水場

一般質問

制度の周知徹底に 特段の努力を

問 対策は

答 分かりやすい広報に努める

前野由和議員

例えば大豊町在宅要介
護者生活支援手当を知ら
なく、請求できるのにも
関わらず8年間も遅れた

町民がいた。手を尽くし
てきたと思うが、超高齢
化の下、さらなる対策を
必要としている。具体的
な施策を問う。

岩崎町長

住民の皆さん特に高齢

条例制定や運用は住民 目線に立つことを徹底せよ

問 理解に苦しむ表現は改めよ
答 条例に従って手続きを行うのが
前提である

前野由和議員

条例解釈をめぐって疑
問が持たれていた水道条
例に見られるように、理
解に苦しむ表現は改め、
運用は住民の立場に立つ
て進め、不平等、不信感
の原因にならないように
対応せよ。

一般質問

ラフティング業者、農家民泊 受け入れの呼び掛け

問 町として積極的な取組を

答 交流事業の取組のなかで検討していく



今井安博 議員

ラフティング業者から
修学旅行生を受け入れ農

者の皆さんに分かりやす
い広報に努める。

岩崎町長

条例は手続きが定めら
れれば、手続きをその条
例に従って行っていただ
けなのということが前提と
なっており、故意にある
いは悪意にという方には
ペナルティーの規定を適
用する。

一般質問

旧大豊中学校の跡地 (グラウンド)の利用計画は

問 トイレが無く不便である

答 臨時的に対応する

今井安博議員

旧大豊中跡には立派な
柚子搾汁加工施設ができ
たが、グラウンド跡地に
は雑草が生い茂ってい

る。地区民はグラウンド
跡地はどうするのか、ま
たトイレも無くグラウン
ドを利用するにも不便だ
と言っている。町はグラ

地域の方々が共に力
を合わせて取り組む中
で、行政も一体となつて
推進していくことが、一
番大事なことでと思つて
いる。

岩崎町長

農家民泊の推進につい
ては高齢化した地域では
困難な面も考えられる。
集会所等を活用してお客
さんをお迎えする中で、
農家民泊等に発展してい
けばいいと話した経緯が
ある。

現在、交流事業の様々
な企画の中でラフティン
グ業者の方にも参加をい
ただき交流の在り方、受
け入れ態勢等検討を進め
ている。